

日本臨床検査医学会 第 58 回学術集会 EBLM 委員会教育セミナー

日時： 平成 23 年 11 月 20 日午前 9 時～午後 3 時

場所： 岡山コンベンションセンター 第 10 会場 (4 階)

テーマ 臨床検査に必要な統計処理法の理論と使い方の実際

司会 山口大学大学院医学系研究科 市原清志

国際医療福祉大学 西堀 眞弘

臨床検査分野では、日常検査における精度管理から検査法の評価、臨床的評価、基準範囲の設定、病態解析など、さまざまな場面で統計処理が必要となります。本教育セミナーでは、臨床検査法の技術的評価法と診断的有用性評価法について理論的な背景を解説します。また各自のノート PC を持参いただき、身近な例題を用いて演習を行うことで、その使い分けや利用上の注意点を習得していただくことを目指しています。

9:00～10:40

1. 測定値の変動要因の分析法 (100 分)

山口大学大学院医学系研究科 市原清志

枝分かれ分散分析法は、近年注目されている統計処理法の一つで、計測誤差(不確かさ)の成分解析、臨床検査値の変動要因の分析など、臨床検査データの精度解析を合理的に行う手法です。その理論と使い方の実際を、代表的な事例を用いて解説し演習を行います。また、同じく変動要因の分析で利用可能な重回帰分析法について、その理論と使い方を、分散分析法と対比させながら解説・演習を行います。

10:50～11:50

2. 測定値の方法間比較のための統計処理法と使い分けの実際 (60 分)

千葉県救急医療センター 佐藤正一

臨床検査の技術的評価を行う場合、精確さの評価に加え、比較対照法との方法間比較が必要となります。方法間比較とは、複数の試料について、異なる方法間で測定値を比較することですが、通常直線回帰式ではなく、線形関係式に基づく回帰(標準主軸回帰、Deming 回帰、Passing-Bablok 回帰等)または、偏差図の利用が必須となります。それぞれの算出手順、使い分け、ピットフォールについて解説し、身近な例を使って演習を行います。

11:50～12:50 (昼休み)

12:50～14:20

3. 臨床検査の診断的有用性の評価法 (90分)

天理医療大学 臨床検査学科 山西八郎

疾患群と非疾患群の判別特性の評価に用いられる感度、特異度、オッズ比、ROC曲線下面積などの指標の求め方と考え方を解説します。また、複数検査の診断的有用性の比較評価法として、多重ロジスティック分析法とROC分析法を対比させて解説・演習を行います。

4. 総合演習 (40分)

1～3のそれぞれの応用問題を用いて、データ解析の演習を行います。

演習方法：実際の数値例（エクセル形式で配布）を使った演習で理解を深めていただくことを目標としていますので、必ずノートPC(OSはWindows 2000, XP, Vista, 7)を持参下さい。演習には、汎用統計解析ソフトウェアStatFlexの講習会版（無料）をインストールしてご利用いただきます。

受講対象者：日本臨床検査医学会会員

募集人数：40名

参加費：3,000円。なお、本セミナーだけに参加される場合には、共催シンポジウム参加費として別途3,000円が必要となります。

受講申し込み・問い合わせ：受講希望者は氏名・所属・連絡先(電話番号・メールアドレス)を明記の上、下記までお申し込み下さい。

koya_yu@yamaguchi-u.ac.jp (担当：山口大学医学部市原研究室 小柳祐二)

電話：0836-85-3183 **Fax**：0836-35-5213

申し込み締め切り：2011年10月31日(月)、ただし定員になり次第締め切らせていただきます。